

飯伊地区 産業経済動向

No.549 2024/12
(7.1.25 発行)

 飯田信用金庫
IIDA SHINKIN BANK
しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙 写真：点火を待つ飯伊の新春の風物詩・どんど焼き（おんべ）（飯田市松尾明・1月11日撮影）	・ P 1
製造業 景況DIは前月から好転。年末を迎え、食品製造で景況感好転の声が多い	・ P 2
建設業 12月の公共工事は前年比増加。11月の住宅着工は前年比14%増加	・ P 4
商業・サービス業 景況DIは前月から変わらず。多くの業種で景況感への見方分かれる	・ P 5
特集 リニア沿線地域研究 甲府市の現状とリニア新幹線	・ P 6
主要経済統計	・ P 12
飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標	・ P 14

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ（<https://www.iidashinkin.co.jp/>）に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは前月から好転。年末を迎え、食品製造で景況感好転の声が多い

当月の製造業の業況判断指数（DI）はプラス21.1で、前月から18.6ポイント上昇。翌月予測はマイナス12.8で、前月から10.3ポイント低下。全般的に景況感悪化との声は少なく、その中で食品製造では売上増加、景況感好転の声が多く聞かれ、数値を押し上げた。ただ食品製造の中でも、値上げによる販売数量の減少や、原材料調達不安定化など、課題を指摘する声は多い。先行きについては、機械製造の産業機器分野で悪化を見込む声が多く、年末商戦を終えた食品製造でも悪化を見込む声が多くなっている。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、販売は増加の声がやや多い。先行きについては、販売、受注ともに増加見込みとの声が多い。
- ☑景況感…… 当月の景況感是一部に好転との声があるが、横ばいとの声が多い。先行きは業者により見方が分かれるが、好転見込みの声がやや多い。

[企業からのコメント]

- ・「工作機械、ロボット関連投資は、補助金公募の開始で上向きそう。自動車業界の課題である型式証明は少し前進しており、自動車生産は2024年よりは動くともっている」「民需の受注は徐々に動き出している。しかし先行きの受注、販売においては不透明感が継続している」
- ・「賃金上昇への対応は引き続きの課題。価格を改定するための提供価値向上が必須になっている」「人件費増額分についても売価に転嫁する交渉を開始している」

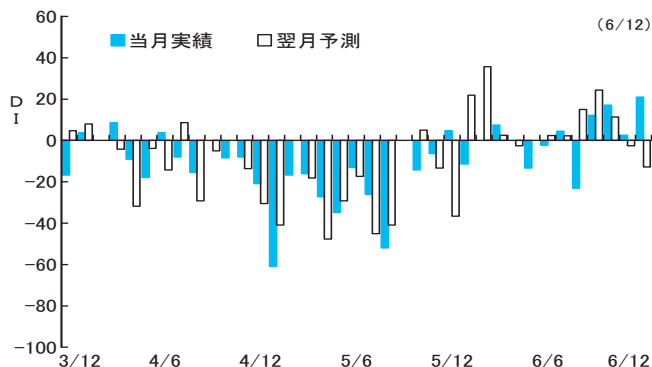
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 受注は前月比で横ばい、販売は前月比横ばい～増加。先行きは、受注、販売ともに業者により増減分かれる。
- ☑景況感…… 当月の景況感は横ばい～やや好転。先行きについては業者により見方が分かれる。

[企業からのコメント]

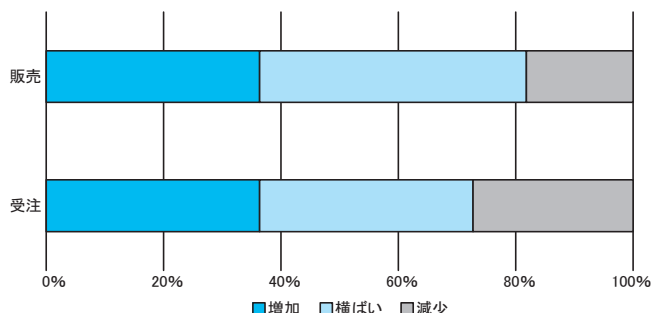
- ・12～1月までの2か月はまとまった注文が入り売上が増加した。ただ先行きは不透明であり、ピーク時の売上には程遠い。2月以降の結果で真価が問われる。
- ・「半導体業界は回復傾向との話を聞く機会が多くなった。当社取引先も一時的ではあるが受注が回復した。ただ、力強さに欠く実感である。希望的観測も含めているが、2025年内には回復すると思われる」「一部の顧客では、半導体関連の仕事は少しずつ上向いてきている」「半導体関連は、今後夏頃まで低迷予測」
- ・地元企業、協力会社と話をしたが、どの業界も芳しくない聞く。今ある仕事をこなし、別業界を含む新規開拓、量産につながる試作品などの種まきに注力していく。

飯伊地区景況DI（製造業）

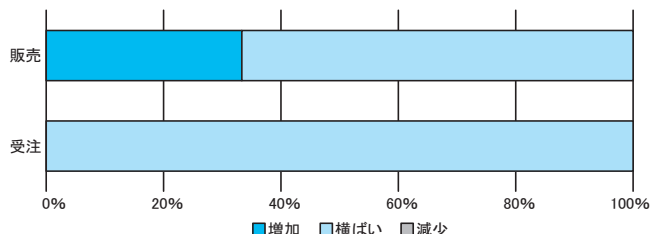


【DI（ディフュージョン・インデックス）とは…
景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合



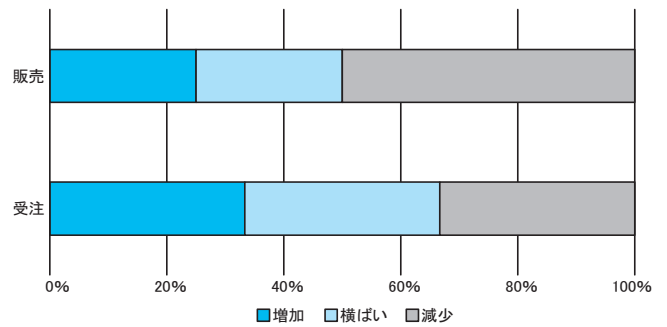
半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ☑受注、販売… 販売、受注ともに前月比は業者により増減分かれるが、販売は減少の声がやや多い。先行きについても業者により増減分かれるが、減少見込みの声がやや多い。
- ☑景況感…… 当月は業者により見方が分かれるが、横ばいの声が多い。先行きは横ばい見込みの声が多いが、次いで悪化見込みの声が多い。

産業機器、医療機器向け部品前月比回答割合



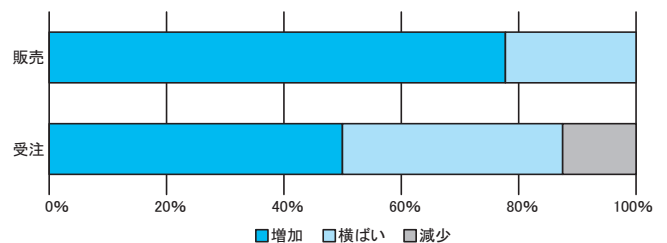
[企業からのコメント]

- ・「医療機器関連は、現時点では低め安定。春先までは変化なし」「業況は芳しくない。回復にはもう少し時間がかかりそう」「自動車、建機関連は厳しいとの話を聞く」「製造業は全般的に良い話が無い。特需的な一時的な盛り上がりはあるようだが、一般的に厳しい状況が続いている」
- ・トランプ大統領就任により、世界の自動車メーカーの方向性が見えてくることに期待したい。

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

- ☑売上…… 漬物の前月比はやや増加～増加。菓子の前月比は横ばい～やや増加。先行きは横ばいを見込む声が多い。
- ☑景況感… 当月は好転との声はやや多く、悪化との声はない。ただ先行きについては悪化を見込む声が多い。

食品製造 前月比回答割合



[企業からのコメント]

- ・「高額商品が売れたことと相場が前年より高かったため、全体的に物の動きは良かった」「生菓子の大幅値上げなど消費価格が上昇する中、半生菓子の割安感があるのか、半生菓子全般に販売高が前年を上回る状況が見られた」「年末年始の大型連休に伴い、受注量が前年に比べ増加した」「年末年始の需要増で稼働が良かった。反面、単品別に見ると、値上げ商品の販売点数が昨年を大幅に下回った」「競合他社の値下げが始めている」「年末商戦も、特に大きな盛り上がりは感じられなかった。精肉・鮮魚・野菜全てが高値であり、加工食品への出費は抑えられていると感じている」
- ・「天候の影響もあり、野菜原料全般に高値安定。特にキャベツは、ここまでの高値と、長期間の高値継続は経験したことがない。農業従事者の減少は止まらず、この先野菜の安定調達はますます困難になると感じる」「全国的に原料野菜の不足が続いており、今後の懸念材料となっている」

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ☑売上… 前月比は業者により増減分かれる。景況感も業者により見方が分かれる。

[企業からのコメント]

- ・元旦からの好天に恵まれ、各地神社は大勢の初詣参拝客で賑わいを見せ、御守り・お札・縁起物等、授与品販売において近年稀に見る活況との報告を受けている。流通在庫が減少して、本年度の受注増を期待している。
- ・祝儀用品はますます減少。商品の値上げ効果で、数量が減っても例年よりは販売額は落ち着いているが、見通しはやや暗い。
- ・年末年始、テレビ等で水引商品を多く見かけた。まだ使用分野の余地があり、多方面での販売が可能に思えた。

●上記以外の製造業

- ☑建築用金属製品… 販売は前月比横ばい、前年比では増加、先行きは横ばいを見込む。景況感はやや悪化。
- ☑自動車向け部品… 販売は前月比でやや増加、先行きは横ばいを見込むという。景況感については当月、先行きとも横ばい。
- ☑印刷……… 販売は前月比でやや増加～増加、前年比は業者により増減分かれる。

[企業からのコメント]

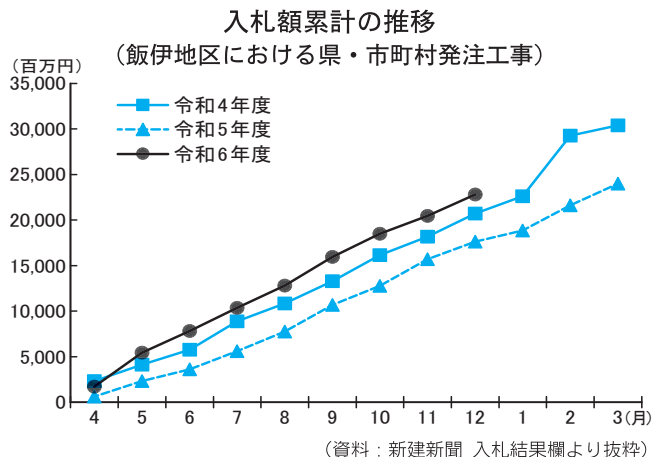
- ・建築資材の高騰、労務不足等の影響で、再開発以外の新規の建築案件がかなり減少している。
- ・「年賀状は予想していた通り、大幅ダウンとなる。今後はますます減る傾向にあり、年賀見本帳も今後どう対応するか、悩むところとなる。年末年始のチラシも大きく減少」「小規模事業者にとって、ますます厳しい時が来たという感じ。事業領域の見直しが急務。県内の印刷会社でも、M&Aを検討されているところがあるという」「デジタル化が加速する中、印刷業界の今後のあり方が問われるとき」
- ・「受注を増やすための営業および設計の人員増を検討中」「中途採用求人に応募が来ない」

建設業

官公需

概況 12月の公共工事入札金額は前年比で21.9%増加、一昨年比では8.3%減少

- ✓公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、約23.3億（1月15日調査時点）。前年に比べ21.9%増加、2年前との比較では8.3%の減少。
- ✓景況感…………… 当月は横ばいとの声が多い。先行きについては一部にやや悪化を見込むとの声があるが、全体では横ばい見込みの声が多い。
- ✓原材料価格…………… 当月は横ばいと上昇との声が半々。先行きについてはやや上昇を見込むという声が多い。



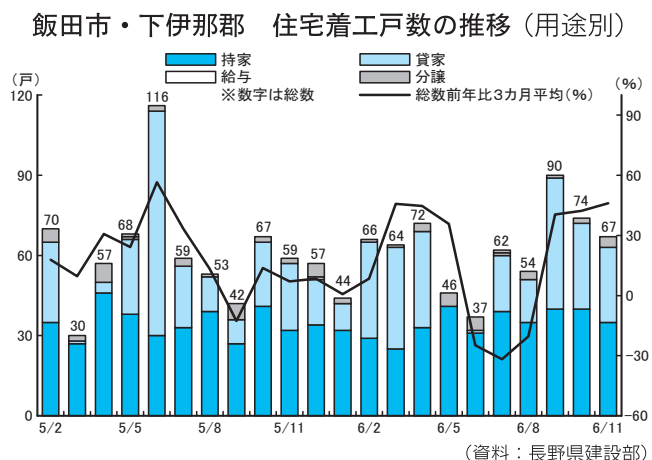
[企業からのコメント]

- ・「前年同月より受注金額は伸びている。新規見込みについても受注が進んでいる」「災害関連工事や改良工事が完了し、現在は小規模な維持工事や農地関連の工事のみとなっている」
- ・「仕事はそれなりにある状態は続いているが、労働力不足で断った、と聞くことが増えてきた」「現状、技術者が不足している。技術者、営業等は通年で募集」「現状は人員維持できているが、従業員の定年等により今後は人員減となる見込み」「施工社員が不足しており、中途での採用を実施」「人員の老齢化率が上昇している。今後、若年層の増員を図る」
- ・「生コンは4月1日から値上げ。またアスファルト合材も値上がりの予定」

民需

概況 令和6年11月の住宅着工戸数は67戸で前年比14%増加。持家、貸家、分譲ともに増加し、5か月続けて前年比プラス

- ✓住宅着工戸数… 当地区の11月の住宅着工戸数は67戸。前月比10%減、前年比では14%増。持家の戸数は35件で前年（32件）から増加。貸家は28件で前年（25件）から増加。分譲は4件で、こちらも前年（2件）から増加。
- ✓景況感…………… 当月は業者により見方が分かれるが、全体では横ばいとの声が多い。先行きについては、好転見込みと悪化見込みの声が拮抗している。
- ✓原材料価格…………… 当月は横ばい～やや上昇。先行きについては、やや上昇との声が多い。



[企業からのコメント]

- ・年度内はみな仕事を持っていて忙しいと思う。
- ・景況感は大きな変化はない。今後、従業員を1名増員する計画。

建設資材等

概況 12月の生コンの売上は前月比では業者により増減分かれ、前年比では増加。骨材は前月比やや増加、前年比では増加

- ✓生コン … 売上は前月比は業者により増減分かれる。前年比ではやや増加～増加。
- ✓骨材 … 売上は前月比やや増加。前年比では増加。

[企業からのコメント]

- ・12月の主な出荷はリニア関連工事、三遠南信工事、砂防堰堤・護岸工事、病院建設等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は当月出荷量の約3割。
- ・「12月に入り、中部電力発電所の現場が動き、出荷量が多かった。地域全体で生コンの出荷があった月だった」「リニア関連の生コンがそこそこ動いたこと、また飯田インター前の商業施設の解体ほか、廃材受入れが上限いっぱいの状態が続いている」「再生砕石の出荷も順調な月」
- ・「人員については、現状、先行きとも変更なしの予定」「今後、若干の増員を計画」

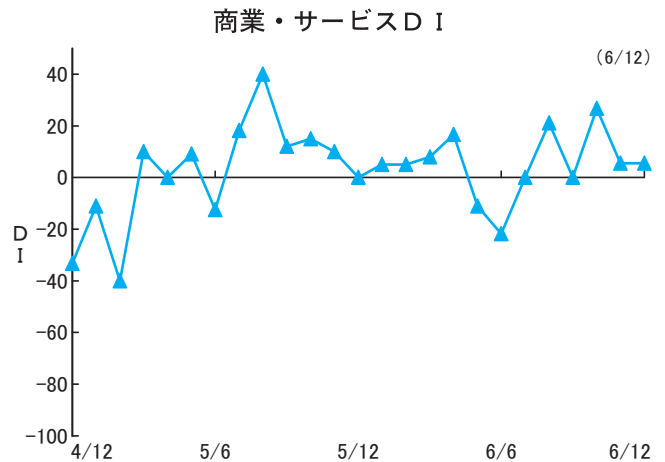
商業・サービス業

概況 景況DIは前月から変わらず。多くの業種で景況感への見方分かれる

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）はプラス5.6で、前月から変わらず。

当月は、多くの業種で景況感好転の声と、悪化の声が両方聞かれ、全体のDIは前月と変わらず。飲食業では年末を迎え多くの事業者で売上が増加したが、消費動向が弱く、景況感は悪化しているとの回答が一部にあった。宿泊業では、宴会売上が増加したとの声がある一方で、近年になく宿泊が少なかったとの声もあった。

次月以降は、年末シーズンを終えた宿泊業で景況感悪化を見込む声が複数聞かれ、他の業種では好転見込みと悪化見込みの声が拮抗している。



主な業種の動き

●小売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれるが、増加の声が多い。先行きはやや減少～横ばい

☑売上 … 前月比は業者により増減分かれるが増加の声が多い。先行きはやや減少～横ばい。

☑景況感 … 当月は業者により見方が分かれる。先行きは横ばいを見込む声が多い。

[企業からのコメント]

・「青果物は依然として高騰。正月商品売上は前年比でややプラスとなり、12月全体の売上も前年比で増加した」「自治体の物価対策商品券により、売上増加。ただ仕入先の廃業や近隣同業者の店舗縮小などがあり、引き続き厳しい状況」

●卸売業 概況 売上の前月比はやや増加～増加。景況感は業者により見方が分かれる

☑売上 … 食品、青果、食肉は前月比増加、電設資材は前月比やや増加。

[企業からのコメント]

・野菜は、12月は土物野菜以外の品目は軒並み高めの価格で、キャベツの高値は1月下旬まで続きそう。野菜全体でも入荷やや増、価格高で、価格高の状況は続きそう。果実は、主力の市田柿は11～12月の気温が高かったこともあり、予想通り出荷減、価格高となった。苺も12月下旬の寒波で品薄、ふじ（りんご）は全国的に少なく価格が大幅に高い。果実全体は、価格高の影響で売上増加となった。

・公共施設をはじめとした大型物件により売上は増加。老朽化した設備の更新や民間リニューアル工事がメイン。ただ、原材料および人件費増加に起因する「仕入単価の値上がり」による売上高の積み増しである部分も大きい。利益面からみると、今後も価格転嫁を進めなければならない状況。人手不足や労働時間規制により工期も長期化してきている。

・飯田下伊那の焼肉店の売上は好調と聞く。飯田焼肉のメディアなどでの露出効果が現れていると考える。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 売上の前月比は、飲食業で横ばい～増加、宿泊業は業者により増減分かれる。

景況感は、飲食業、宿泊業ともに業者により見方が分かれる

☑売上 … 飲食業の前月比は横ばい～増加。宿泊業は業者により増減分かれるが、減少との声が多い。運輸業は前月比横ばい～やや増加。

[企業からのコメント]

・「宴会の予約が少なかったが、12月中盤に一気に予約が入った。予約が重なる日もあって断るケースもあり残念。売上は前年並みだが、景気は良いとは言えない。宴会の予算も飲み代も少ないと感じる」「食事はしてもらえるが、売店で買物が控えられており売上は伸びない」

・「年末年始が9連休となり、12月27～31日、1月3～4日はほぼ満館状態になるも、1月1～2日は正月料金のため高く、昼神温泉全体で空室が目立ってしまった」「近年にない悪い12月であり、前年同月比の売上が大幅に減少。1～3月までは毎年のことでもあるが厳しい月となる。昼神温泉全体を見ても、当社とそんなに変わらないと見受けられた。また諸物価の値上げも大きく、利益を圧迫されている」「すべての価格が上昇するのに、宿泊単価はなかなか上げづらい。特に冬季はひどく、2025年は今まで以上に厳しいと感じる」

・コロナ前との売上対比は8割強で、タクシー運行回数はいまだ7割止まり。12月の繁忙期、週末は賑やかだったが、平日の夜間についてはコロナ前の賑わいは感じられなかった。対前年比では売上、運行回数ともに下回った。

・「管理者不足が続き、補欠ゼロ。それにより既存社員の労働マインドが悪化しているのを感じる」「人員不足で、困る状況も今後出てくると予想されるため、色々と検討している」

甲府市の現状とリニア新幹線 ～リニア新幹線駅と地域づくり・まちづくり～

飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所

当研究所ではリニア新幹線沿線の各駅予定地地域について、新幹線建設の状況やリニア開通後を見据えたまちづくりなどに着目してきた。今回はその中で山梨県甲府市を取り上げる。

1. 甲府市・山梨県駅地域の現況

(1) 甲府市を中心とする地域の概況

山梨県は御坂山地で甲府市・甲府盆地を含む「^{くになか}国中」と大月市、都留市、富士吉田市など東部の「^{ぐんない}郡内」とに分けられる。甲府市の人口は183千人（令和6年4月現在）、県内の行政（山梨県庁、甲府市役所）が集中しており、歴史的に武田信玄公の統治（躑躅ヶ崎館＝現武田神社）や江戸時代幕府の西の護りとしての甲府城と甲州街道により形成された街は政治・文化の中心であり続けた。

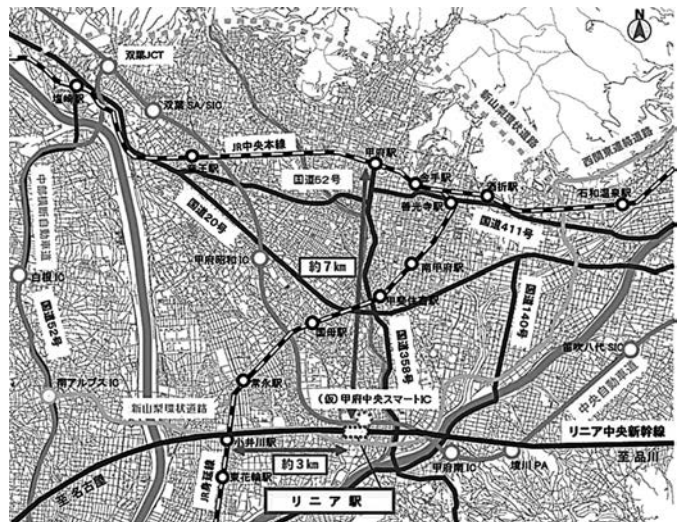
商業では、かつて甲府中心部は大きな集客力を誇り、長野県諏訪地域などからも吸引していたが、中心市街地の百貨店の閉鎖や高速道ICにショッピングモールの計画がみられるなど変化が進んでいる。

観光面では近年富士山観光が注目を集めオーバーツーリズムの傾向がみられる他、甲府市とその周辺への観光スポットへの誘客などの観光振興策と、リニア開業時の観光動線の設定など展望した施策が練り上げられている。

2021（令和3）年、中部横断道の双葉JCT・静岡清水JCT間が全通し、以後開業効果が表れつつあると考えられる。

リニア整備の観点からは、甲府市は現状で新宿から特急で約1時間30分。リニア中央新幹線が開通すると、品川から山梨県駅までは27分とされている。この開業時短効果の程度が地域のリニアに対する意識を規定しているとも考えられる。

甲府盆地 リニア新幹線と交通体系



（山梨県HP「リニア駅前エリア整備のあり方」（令和3年3月）より）

(2) リニア中央新幹線建設の状況

山梨県内は、神奈川県境に近い上野原市から都留市、大月市、笛吹市に亘る約42kmのリニア実験線は既設で試験走行を実施中。リニア本線はそこから甲府市等を経て早川町・静岡県境までの40kmが整備中となっている。

現地に進むと、実験線の先端から最初に中央自動車道を跨ぐ同境川SAの高架橋や中央市の地内高架橋、釜無川橋梁で形が表れてきている。また富士川町から早川町に至る第1～4南巨摩トンネルと橋梁の工事が着手されている。

早川町の南アルプストンネル山梨工区は、着手が長野県側よりも早く、広河原非常口から進められている本線トンネル掘削では先進坑が静岡県境316mまで達していて、そこから静岡県側への地質調査（高速長尺先進ボーリング）が行われたが、県境に向けて掘削を再開すると発表された。



山梨県中央市のリニア工事状況（6年12月5日）

(3) リニア関連事業と二次交通

(ア) 山梨県駅周辺整備

リニア駅本体は、長崎山梨県知事の「駅位置見直し」表明を受けて検討を行っていたことなどからやや遅れていたが、本體工事の発注は本年度中に行われる見込み（甲府商工会議所）。

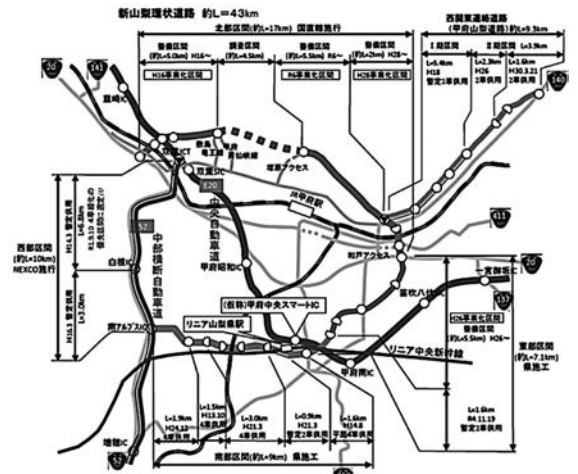
駅周辺整備は、駅の南北エリアを市と県が分担して進めることとし、用地買収は令和7年度以降に行われることとなっている（同）。

(イ) 新山梨環状道路

新山梨環状道路は「甲府都市圏における交通の円滑化と、周辺地域の連携強化などを目的とした」（県HP）高規格道度で、リニア駅と中央自動車・中部横断道などと結節し、甲府市を中心に甲府盆地の域内各地を広く結ぶものとなる。

環状道路は北部、東部、南部、西部の4区間で構成される（右欄）。現在の進捗率は約5割で、リニア開通までの完成を目指して取り組まれている。

新山梨環状道路の概要



（山梨県HP「新山梨環状道路」より）

北部（国直轄施工）	中央道甲斐JCT～石和町広瀬IC
東部（県施工）	南部工業団地～広瀬IC
南部（県施工・完成）	南部工業団地～南アルプスIC
西部	中部横断道双葉JCT～南アルプスICを活用

(ウ) リニア駅へのアクセス

リニア駅予定地は、甲府市内とはいえ市中心部から約7km、車で30分近い距離にある。県内各地とのアクセスはリニア駅エリアに新設されるスマートICと前項の道路整備の推進によりアクセス向上を図る。他方で、甲府市中心部とリニア駅との結節は、身延線小井川駅とのシャトルバス、またバス交通や「自動運転やMaaSなど次世代交通システムの導入を検討」（県リニアビジョン）とされてきたが、ここに来て、あらたな「富士トラム」という構想が出ている。

富士登山・来訪者の急増により環境への負荷が深刻化している富士スバルラインおよび富士山登山道への対策として、五合目終点までに登山鉄道のレールを敷設し鉄道による入山者のコントロールを図るとして、県は2023（令和5）年から検討会議を立ち上げ検討を続けてきたが、道路勾配や曲線半径など技術的に低床車両（LRT）による導入は困難との結論に達した。

県はこれに替わるものとして、ゴムタイヤ・電動・連結車両で一般道路を走るART（Autonomous Rapide Transit）の「富士トラム」導入を提唱している。これによりリニア山梨県駅から富士スバルラインを繋げるほか、山梨県駅から甲府市中心部のほか県内各所を結ぶという。

山梨県のリニア駅とのアクセスには、引き続き検討が続く見込み。結論が得られるのもう暫くを要すると考えられる。

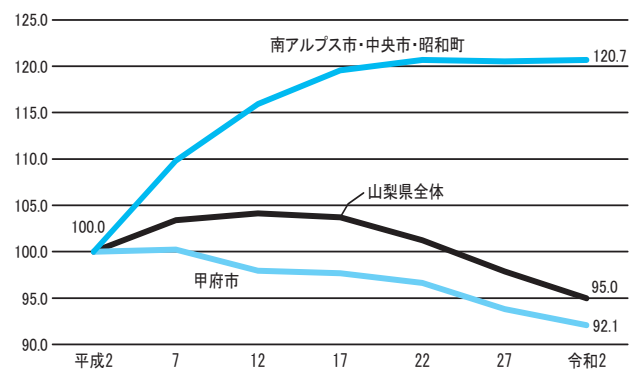


「富士トラム」イメージ図（山梨県HP）

(エ) 域内交通と人口移動

山梨県が、「新山梨環状道路の開通効果」として甲府市周辺自治体の人口変動状況を指摘している。甲府市の人口変化については次章で詳述するが、高速交通網の整備に伴い、国中地域における人口に影響が生じているとの認識が示されている（県HP）。

沿線自治体の人口の推移 平成2年=100%



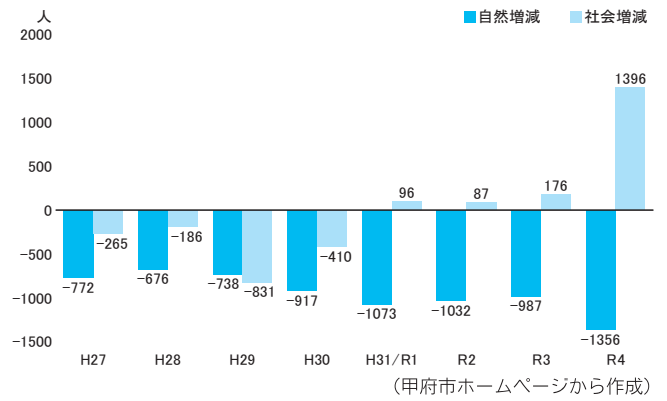
（山梨県「新山梨環状道路資料」のグラフに甲府市の推移を追加（県HP）

2. 甲府市の人口変化の特徴

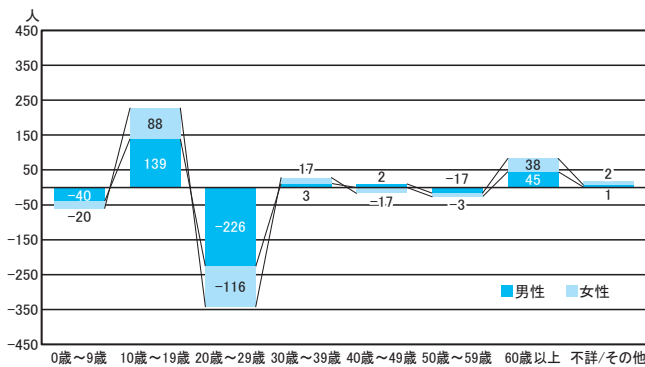
(1) 甲府市の社会増減の変化

平成27年からの甲府市人口の自然増減と社会増減の推移は右グラフ1の通り。自然減が続く状況は他の地方都市と同様であり、近年はその減少幅が大きくなっているところも同様である。社会増減については、平成の大合併によって現在の甲府市となった平成18年以降でみると、平成22年までは社会増の年も見られるが、平成23年～平成30年までは社会減が続き、その後令和に入ってから社会増が続いている。令和以降の社会増の理由について、コロナ禍による地方移住の動きなどが考えられる。甲府市は山梨県の県庁所在地ということで、リニア中間駅が設置される飯田市や、岐阜県中津川市に比べて官公庁、企業、大学などの数が多く、その分、人口の移動が活発になされている印象を受ける。

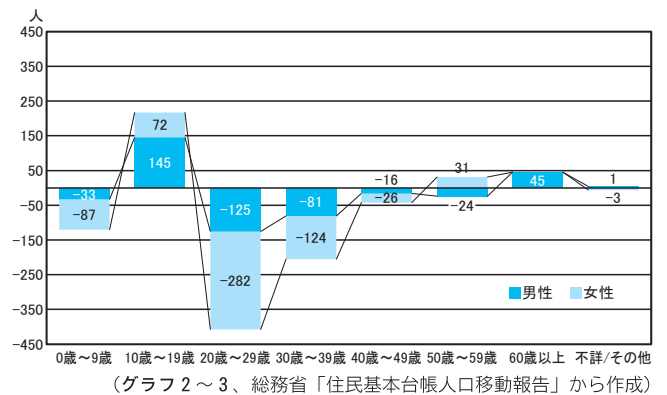
グラフ1 甲府市 自然増減と社会増減



グラフ2 性別・年齢区分別転入超過数 甲府市 2019年



グラフ3 性別・年齢区分別転入超過数 甲府市 2023年

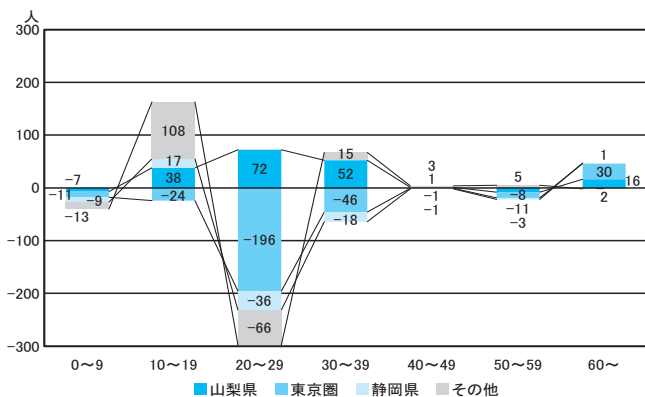


同市における令和元(2019)年と令和5(2023)年の社会増減を性別・年齢区分別(グラフ2、3)で並べてみると、令和元年、令和5年ともに10代が社会増、20代が社会減というのが大まかな傾向となっている。相違点としては、令和5年の方が10歳未満、30代の転出が多くなっていること、また、女性の転出が拡大していることが挙げられる。

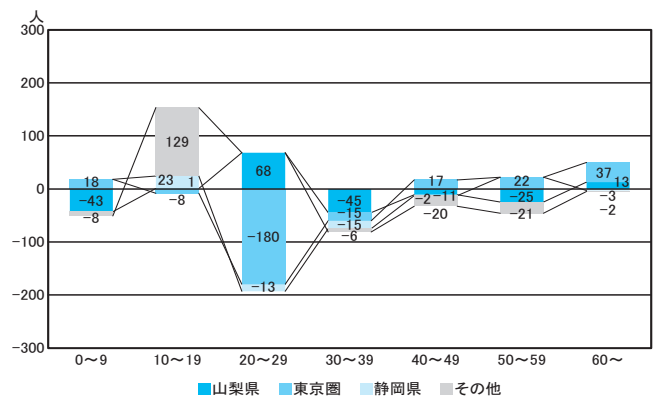
次に、移動前の住所地を見てみると、「10代は社会増で、その他県外からの流入が多い」「20代は社会減で、特に東京圏(1都3県)への流出が多い。一方で山梨県内からは流入が多い」「60代は男性で東京圏からの流入が多い」ことが挙げられる。

また、令和元年と令和5年を比較してみると、男性では「30代の、山梨県内からの社会増減について、令和元年には社会増となっていたが、令和5年には社会減に転じた」「10代未満の、山梨県内への社会減が拡大した」「40代～50代の社会増減が拡大した」ことが分かる(グラフ4～5)。女性では、「20代の、東京圏への転出が拡大した」「30代の、山梨県内からの社会増減について、令和元年には社会増となっていたが、令和5年には社会減に

グラフ4 年齢区分別純移動数 甲府市 男性 2019年

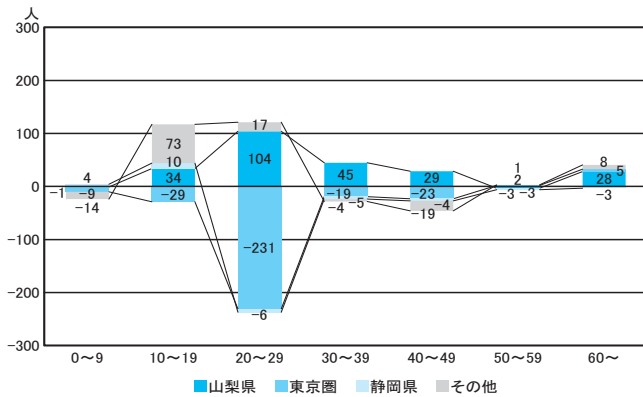


グラフ5 年齢区分別純移動数 甲府市 女性 2019年

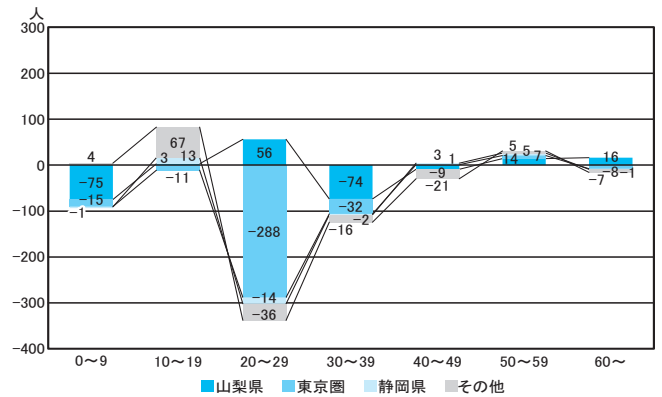


転じた」ことが読み取れる（グラフ6～7）。

グラフ6 年齢区分別純移動数 甲府市 女性 2019年



グラフ7 年齢区分別別純移動数 甲府市 女性 2023年



(グラフ4～7、総務省「住民基本台帳人口移動報告」から作成)

甲府市は10代の社会増が多く、20代の社会減が多い自治体であるが、これは4年生の大学を多く有する自治体であることが影響しているものと考えられる。甲府市ホームページによると、市内の大学は国立大学法人山梨大学(医学部のみ隣の中央市)、山梨学院大学、山梨県立大学、山梨英和大学と、4つの4年制大学があり、在学生の総数は約9,000人(各大学のホームページから当研究所集計)となっている。この学生の多さが甲府市の特徴の一つであり、県外から甲府市へ来て学び、卒業後には主に東京圏で就職する、というのが、社会増減の特徴につながっていると考えられる。

3. 甲府市から他自治体への通勤・通学状況

(1) 他自治体への通勤状況

ここでは国勢調査(2020年)の「従業地・通学地による人口・就業状態等集計」から、甲府市からの通勤状況について、リニア中間駅が設置される飯田市、中津川市との比較で確認する。

甲府市、飯田市、中津川市の他地域への通勤状況

	15歳以上 就業者(人)	他市区町村で 従業(人)	他市区町村への 通勤率(%)	他の県で 従業(人)	他県への 通勤率(%)
甲府市	88,125	26,043	29.6%	1,288	1.5%
飯田市	51,537	7,126	13.8%	281	0.5%
中津川市	38,383	6,765	17.6%	1,570	4.1%

(総務省「国勢調査」(2020年)から作成)

甲府市では、他市区町村で従業する人が15歳以上就業者のうち29.6%(26,043人)となっており、飯田市(13.8%(7,126人))と比較して15.8ポイント、中津川市(17.6%(6,765人))と比較して12.0ポイント高い。その内訳を見ると、多い順に、笛吹市(4,588人)、昭和町(3,781人)、甲斐市(3,713人)、中央市(3,157人)、南アルプス市(2,498人)、韮崎市(1,891人)、山梨市(1,136人)となっており、この近隣6市町で約8割を占める。県外で従業する人は1.5%(1,288人)となっており、飯田市(0.5%(281人))より多いが、中津川市(4.1%(1,570人))よりは少ない。なお、県外への通勤のうち、東京都への通勤が786人となっており、県外通勤者の6割を占めている。JR中央本線で甲府駅～東京駅が2時間弱という状況から、他県での従業者が一定程度いるのでは、との仮説を立てていたが、通勤にかかる時間、金額の影響からか、中津川市ほどの数ではなかった(この点については後述)。

(2) 他自治体への通学状況

続いて、甲府市からの通学状況について確認する。

甲府市、飯田市、中津川市の他地域への通学状況

	15歳以上 通学者(人)	他市区町村へ 通学(人)	他市区町村への 通学率(%)	他の県へ 通学(人)	他県への 通学率(%)
甲府市	9,996	1,666	16.7%	588	5.9%
飯田市	3,680	654	17.8%	185	5.0%
中津川市	3,081	1,244	40.4%	451	14.6%

(総務省「国勢調査」(2020年)から作成)

甲府市では、他市区町村へ通学する人が15歳以上通学者のうち16.7%(1,666人)となっており、飯田市(17.8%(654人))と比較して1.1ポイント、中津川市(40.4%(1,244人))と比較して23.7ポイント低く、通勤とは逆の傾向が見られる。県内への通学では、多い順に昭和町(211人)、笛吹市(140人)、甲斐市(110人)と、やはり近隣市町が上位に並ぶ。県外へ通学する人は5.9%(588人)で、割合で見ると飯田市と大きく変わらない。なお、県外への通学のうち、東京都への通学が368人となっており、通勤と同じく、県外通学者の6割超となっている。前述の通り、甲府市は4年制大学などの教育機関が多く、他地域と比べ市内への通学が多い状況が窺える。

(3) 通勤・通学にかかる時間、金額が与える影響

甲府市においては、通勤・通学ともに県外(主に東京都)への動きは飯田市と大きく変わらないことが分かった。一方で、「山梨県内の中でも、東京に近い上野原市、大月市からは東京へ通勤・通学する人が多くいる」(談・甲府商工会議所)とのことであった。上野原市、大月市ともに、JR中央本線の駅があり、東京へのアクセスが便利な市である。両市と併せて、山梨県内の他のJR中央本線沿いの自治体について比較した。

山梨県内自治体の他県への通勤状況と時間・金額

	15歳以上 就業者(人)	他の県で 従業(人)	他県への 通勤率(%)	東京駅までの時間 (普通電車)	東京駅までの金額 (片道・普通)
上野原市	10,952	3,360	30.7%	約1時間30分	1,166円
大月市	10,134	1,653	16.3%	約1時間50分	1,518円
甲州市	15,416	268	1.7%	約2時間20分	1,980円
山梨市	17,034	255	1.5%	約2時間30分	2,310円
笛吹市	35,265	441	1.3%	約2時間40分	2,310円
甲府市	88,125	1,288	1.5%	約3時間	2,310円
	15歳以上 就業者(人)	他の県で 従業(人)	他県への 通勤率(%)	名古屋駅までの時間 (普通電車)	名古屋駅までの金額 (片道・普通)
(参考) 中津川市	38,383	1,570	4.1%	約1時間20分	1,340円

総務省「国勢調査」(2020年)、JRホームページから作成

まず通勤では、県外で従業する人が上野原市は30.7%(3,360人)、大月市は16.3%(1,653人)となっており、山梨県内の中で突出して多い。表では東京駅までの時間、金額としているが、八王子駅までであれば上野原駅から約25分(片道料金420円)、大月駅から約45分(片道料金770円)であり、両市から県外への通勤のうち八王子市が3分の1を占めている。両市においては、八王子市のベッドタウンとして認知されているといえる。

一方で、東京からやや離れた甲州市、山梨市、笛吹市になると、県外への通勤は大きく減り、甲府市と変わらない水準となっている。大月市(大月駅)と甲州市(塩山駅)の間は約30分、片道料金500円程度であるが、この両市の間で大きな差があることが分かる。甲州市(塩山駅)から八王子市(八王子駅)までは約1時間15分かかることから、通勤においては1時間圏内というのが一つの基準と考えられる。

山梨県内自治体の他県への通学状況と時間・金額

	15歳以上 通学者(人)	他の県へ 通学(人)	他県への 進学率(%)	東京駅までの時間 (普通電車)	東京駅までの金額 (片道・普通)
上野原市	1,188	399	33.6%	約1時間30分	1,166円
大月市	1,102	269	24.4%	約1時間50分	1,518円
甲州市	1,506	177	11.8%	約2時間20分	1,980円
山梨市	1,480	156	10.5%	約2時間30分	2,310円
笛吹市	2,877	262	9.1%	約2時間40分	2,310円
甲府市	9,996	588	5.9%	約3時間	2,310円
	15歳以上 通学者(人)	他の県へ 通学(人)	他県への 進学率(%)	名古屋駅までの時間 (普通電車)	名古屋駅までの金額 (片道・普通)
(参考) 中津川市	3,081	451	14.6%	約1時間20分	1,340円

総務省「国勢調査」(2020年)、JRホームページから作成

続いて通学を見ると、県外へ通学する人が上野原市は33.6% (399人)、大月市は24.4% (269人) となっており、こちらも山梨県内では高い水準となっている。ただ、甲州市で11.8% (177人)、山梨市で9.1% (156人)、笛吹市9.1% (262人) となっており、通勤に比べてその差は緩やかになっている。なお、参考として中津川市の数字も載せているが、中津川市も通勤率より通学率の方が高くなっている。要因としては、通学(学生)の方が、通勤(社会人)よりも時間の融通が利くことが考えられるが、甲府市ではやや数字が落ちるため、普通電車で約3時間かかるという点は通学にとってもハードルであると思われる。

以上、甲府市、山梨県内の他市について通勤・通学の状況を確認してきたが、「通勤が増えるのは電車で1時間圏内の都市」「通学は通勤よりも時間に融通が利く」という傾向が見られた。

飯田下伊那地域がリニア開通により名古屋まで25分、東京(品川)まで45分となった場合には、時間的感覚としては十分に通勤・通学ともに可能であることがあらためて実感できる結果であった。

甲府市においても、リニア開通による時間短縮効果は期待されているところだが、「利便性を考えると1時間に1本程度では少ない。東京方面への通勤・通学を考えれば、朝晩の時間帯だけでも増やしてほしい」(談・(公財)山梨総合研究所)との声があった。当地域においても、リニアの通勤・通学の時間帯の利便性が高まれば、中京圏・東京圏への移動は当然のこととして、大学の多い甲府市への通学に使われる可能性も高まってくると考えられる。

通勤・通学時におけるリニア駅へのアクセス、リニア降車後の乗り換え、リニアの定期券の有無やその金額など、考えられるハードルは多々あるが、他県への通勤・通学という選択肢が増えるだけでも当地域にとっては今までにない大きなメリットであり、この点については前向きに捉えてまちづくりの方向性を考えていくべきではないか。

4. おわりに

以上、甲府市の現状や人口動態等について紹介した。当地域と同じ地方都市ではあるが、山梨県の県庁所在地でもあり、JR甲府駅前の賑わい、官公庁施設や大学の多さなど、当地域とはまた違う顔を持った地域である。東京へのアクセスの良さは地域の一つの魅力である一方、若年層の多くが就職で首都圏へ出ていくという大きな課題を抱えており、リニア時代の当地域を考えるうえで多くの示唆を与えてくれているとも感じた。

リニア開通による甲府市～東京の時短効果は1時間程度であるが、名古屋へは2時間以上の時短効果が見込まれている。「つながりの薄い名古屋方面との連携が深まることについてはチャンス」(談・(公財)山梨総合研究所)とのことであり、東海方面とのつながりが強い当地域とも連携の可能性は大いにあるのではないかと考える。甲府市と当地域の移動には現在2時間程度かかるが、リニア開通後は20分程度となり、隣人とも呼べる関係性になる。リニア開通まではまだ時間を要するが、中津川市も含めたリニア沿線地域の連携を深めていく視点は、今後必要となってくるのではないかと考える。

最後になるが、今回ご多忙のなか視察対応をいただいた(公財)山梨総合研究所様、中津川商工会議所様には深甚の感謝を申し上げます。

主要経済統計

項目 年月	住宅着工戸数		高速バス乗車人数							
	飯伊地区		飯田～新宿		飯田～名古屋		飯田～長野		伊那・駒ヶ根～新宿	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	戸	%	人	%	人	%	人	%	人	%
平成30年	637	△ 9.6	327,033	△ 0.3	219,979	0.6	112,882	△ 2.4	—	—
令和元	710	11.5	326,056	△ 0.3	226,581	3.0	108,454	△ 3.9	263,821	—
2	771	8.6	102,394	△ 68.6	85,747	△ 62.2	49,063	△ 54.8	71,390	△ 72.9
3	686	△ 11.0	90,496	△ 11.6	77,895	△ 9.2	39,668	△ 19.1	53,800	△ 24.6
4	638	△ 7.0	163,493	80.7	118,343	51.9	40,389	1.8	117,160	117.8
5	712	11.6	253,155	54.8	162,326	37.2	47,075	16.6	195,366	66.8
令和5.10	67	52.3	21,063	22.8	14,222	18.1	4,265	6.2	17,812	42.3
11	59	△ 28.9	20,799	30.2	14,242	25.9	3,986	15.3	16,438	47.4
12	57	1.8	22,851	19.4	13,925	13.6	3,645	11.5	17,443	32.5
令和6.1	44	29.4	21,421	15.9	13,446	15.4	3,480	0.0	16,701	32.8
2	66	△ 5.7	18,557	23.9	13,204	20.7	3,385	14.6	15,412	33.6
3	64	113.3	24,400	10.5	15,786	5.7	3,958	1.2	20,697	17.6
4	72	26.3	19,874	11.2	12,963	△ 0.7	4,085	△ 1.5	17,130	19.2
5	46	△ 32.4	21,920	0.7	13,748	0.7	4,257	△ 1.2	18,118	7.3
6	37	△ 68.1	18,894	△ 20.9	12,321	4.4	4,123	△ 7.7	16,226	15.2
7	62	5.1	21,169	2.4	13,028	△ 4.2	3,748	△ 6.2	17,985	4.1
8	54	1.9	29,041	2.6	16,210	△ 2.6	3,891	△ 1.7	22,581	3.1
9	90	114.3	21,915	7.5	13,778	0.9	3,724	△ 5.9	19,325	10.8
10	74	10.4	22,134	5.1	14,466	1.7	4,260	△ 0.1	18,687	4.9
11	67	13.6	22,497	8.2	14,245	0.0	3,955	△ 0.8	18,348	11.6
12	—	—	24,707	8.1	14,276	2.5	3,344	△ 8.3	18,697	7.2
資料出所	長野県建設部住宅課		信南交通株式会社							

項目 年月	自動車新規登録台数 (松本登録事務所管内)				軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会)			
	新車		中古車		新車		中古車	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	台	%	台	%	台	%	台	%
平成30年	27,525	0.6	7,352	1.1	50,960	4.1	11,577	△ 1.7
令和元	29,312	6.5	8,548	16.3	51,498	1.1	12,069	4.3
2	26,002	△ 11.3	8,674	1.5	47,551	△ 7.7	12,591	4.3
3	24,672	△ 5.1	8,716	0.5	44,333	△ 6.8	12,880	2.3
4	22,564	△ 8.5	8,133	△ 6.7	44,005	△ 0.7	12,455	△ 3.3
5	26,537	17.6	8,240	1.3	47,269	7.4	12,670	1.7
令和5.10	2,210	14.6	736	13.6	4,081	△ 0.5	988	7.4
11	2,314	14.9	713	14.8	4,200	0.5	917	6.5
12	1,936	6.5	718	14.9	3,471	△ 3.6	895	11.9
令和6.1	1,756	△ 5.2	564	31.8	2,816	△ 29.0	815	0.7
2	1,767	△ 16.3	672	20.2	3,050	△ 28.5	896	3.5
3	2,797	△ 25.6	962	9.9	4,200	△ 23.0	1,104	△ 1.8
4	1,871	△ 3.6	766	4.9	2,763	△ 23.9	1,771	△ 0.2
5	1,679	△ 9.3	782	17.4	2,958	△ 5.5	1,316	10.0
6	2,036	△ 8.1	752	△ 2.5	3,544	△ 1.0	1,134	△ 8.5
7	2,193	3.4	777	11.0	3,583	5.1	1,130	13.3
8	1,759	△ 4.4	648	△ 5.0	3,051	△ 9.3	838	△ 7.0
9	2,349	△ 1.6	677	2.3	4,385	△ 0.7	898	△ 6.7
10	2,203	△ 0.3	881	19.7	3,867	△ 5.2	1,006	1.8
11	2,105	△ 9.0	690	△ 3.2	3,630	△ 13.6	941	2.6
12	1,888	△ 2.5	693	△ 3.5	—	—	—	—
資料出所	長野運輸支局松本自動車検査登録事務所				一般社団法人全国軽自動車協会連合会長野事務所			

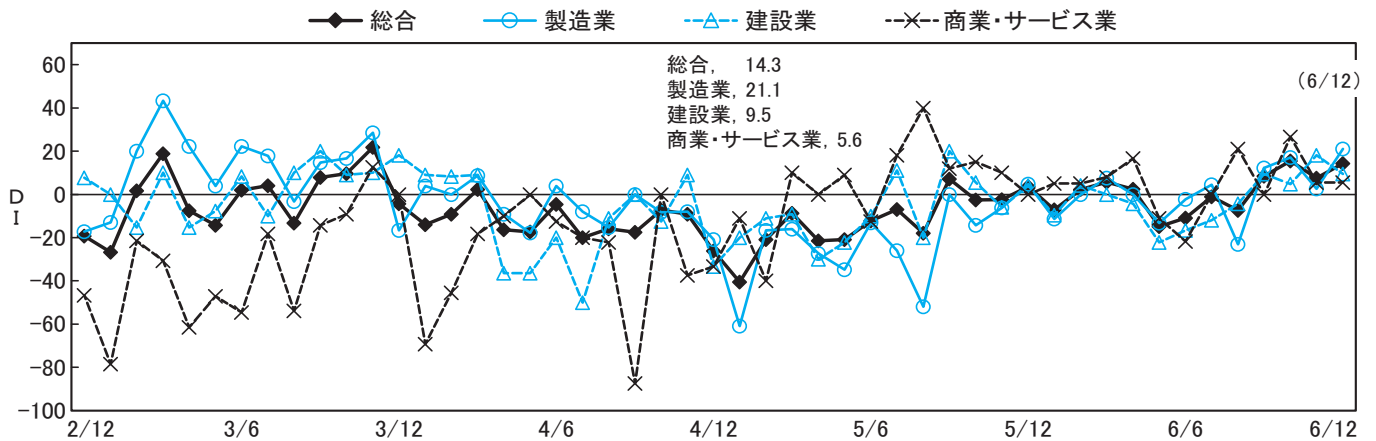
項目 年月	有効求人倍率			倒産件数 (負債額1千万円以上)		信用保証承諾 (飯田支所管内)	
	長野県	飯田管内		長野県内	飯伊地区	新規保証	前年比
	季節調整値 (但、年平均は実数)	パート含む実数	パート除く実数				
	倍	倍	倍	件	件	件	%
平成30年	1.69	—	—	93	20	1,815	△ 5.2
令和元	1.60	—	—	79	8	1,842	1.5
2	1.16	—	—	80	8	3,707	101.2
3	1.33	—	—	66	9	1,799	△ 51.5
4	1.54	—	—	70	9	1,446	△ 19.6
5	1.45	—	—	73	8	1,669	15.4
令和5.10	1.41	1.55	1.78	9	0	149	33.0
11	1.38	1.52	1.75	3	1	150	14.5
12	1.36	1.55	1.81	5	1	142	△ 17.4
令和6.1	1.37	1.47	1.73	8	0	132	9.1
2	1.35	1.39	1.57	5	1	135	5.5
3	1.37	1.33	1.47	8	1	200	16.3
4	1.36	1.33	1.50	5	1	102	△ 18.4
5	1.35	1.32	1.25	13	1	127	5.0
6	1.31	1.33	1.26	10	0	176	22.2
7	1.31	1.34	1.28	8	0	114	△ 13.0
8	1.30	1.30	1.25	6	0	106	△ 10.2
9	1.30	1.41	1.35	6	1	151	△ 10.1
10	1.31	1.40	1.32	10	1	147	△ 1.3
11	1.28	1.56	1.44	13	2	113	△ 24.7
12	—	—	—	—	—	147	3.5
資料出所	長野労働局・ハローワーク飯田			南信州地域振興局商工観光課		長野県信用保証協会飯田支店	

※数値は発表者によって予告なく改定されることがあります。

項目 年月	中央道利用台数 (インターチェンジ出入合計)									
	飯田 I C		松川 I C		園原 I C		山本 I C		座光寺 S I C	
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比
	台	%	台	%	台	%	台	%	台	%
平成30年	2,765,376	0.2	1,871,062	0.3	423,828	15.1	1,017,497	△ 0.1	—	—
令和元	2,741,865	△ 0.9	1,836,395	△ 1.9	405,661	△ 4.3	1,015,783	△ 0.2	—	—
2	2,191,489	△ 20.1	1,539,468	△ 16.2	330,231	△ 18.6	849,805	△ 16.3	—	—
3	2,069,577	△ 5.6	1,334,516	△ 13.3	328,892	△ 0.4	896,142	5.5	—	—
4	2,192,851	6.0	1,331,034	△ 0.3	380,886	15.8	1,045,343	16.6	799,207	—
5	2,330,747	6.3	1,397,630	5.0	365,362	△ 4.1	1,143,659	9.4	904,767	13.2
令和5.10	209,245	0.9	136,392	0.9	38,804	△ 16.3	112,661	0.0	81,020	5.3
11	207,256	6.1	136,602	3.3	29,333	△ 25.8	120,986	15.6	80,404	12.4
12	191,669	1.6	113,350	△ 0.7	20,708	△ 8.2	83,821	6.5	76,118	9.4
令和6.1	174,468	3.4	95,256	△ 1.1	21,343	△ 9.9	73,735	8.2	70,502	7.5
2	164,373	1.4	89,342	△ 0.6	17,906	△ 17.5	74,131	11.2	66,393	7.8
3	193,758	△ 4.5	106,481	△ 8.2	10,991	△ 57.2	97,991	9.0	80,421	4.0
4	187,405	△ 0.7	103,597	△ 5.2	25,583	△ 53.3	102,554	1.6	80,682	10.4
5	196,792	△ 0.9	108,259	△ 3.7	25,289	△ 15.5	103,117	4.9	84,337	9.1
6	186,779	0.8	105,290	△ 6.4	21,723	△ 8.2	106,723	16.8	83,533	13.3
7	200,714	△ 1.9	111,585	△ 8.3	24,800	△ 25.1	108,296	3.5	89,192	11.5
8	207,716	△ 1.3	118,093	△ 7.3	32,531	△ 5.1	112,903	4.6	88,402	10.5
9	200,742	△ 0.3	121,084	△ 3.9	28,304	△ 4.6	104,589	6.2	90,057	14.4
10	196,690	△ 6.0	133,688	△ 2.0	35,419	△ 8.7	120,753	7.2	101,195	24.9
11	211,043	1.8	137,902	1.0	36,391	24.1	117,329	△ 3.0	88,072	9.5
12	192,986	0.7	111,190	△ 1.9	20,698	△ 0.0	88,294	5.3	84,187	10.6
資料出所	中日本高速道路(株)名古屋支社飯田保全サービスセンター									

飯伊地区全産業景況DIの推移

飯伊地区景況DI (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒産件数 (負債総額1千万円以上) (11月)	県内	13件	(前月 10件)	(前年同月 3件)	(前々年同月 6件)	(令和元年同月 8件)
	飯伊	2件	(前月 1件)	(前年同月 1件)	(前々年同月 3件)	(令和元年同月 2件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数) (11月)		67戸	△ 9.5 %	13.6 %	△ 19.3 %	△ 31.6 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (11月)		1.56倍	(前月 1.40倍)	(前年同月 1.52倍)	(前々年同月 1.72倍)	(令和元年同月 1.41倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,888台	△ 10.3 %	△ 2.5 %	3.9 %	△ 6.1 %
	中古車	693台	0.4 %	△ 3.5 %	10.9 %	5.0 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会) (11月)	新車	3,630台	△ 6.1 %	△ 13.6 %	△ 13.1 %	△ 10.0 %
	中古車	941台	△ 6.5 %	2.6 %	9.3 %	0.4 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	95,206台	△ 9.0 %	0.8 %	2.4 %	△ 13.1 %
	出	97,780台	△ 8.1 %	0.6 %	2.3 %	△ 13.5 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	56,027台	△ 18.6 %	△ 1.6 %	△ 3.5 %	△ 26.6 %
	出	55,163台	△ 20.1 %	△ 2.2 %	△ 1.5 %	△ 27.0 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	10,545台	△ 48.9 %	△ 0.1 %	△ 4.3 %	△ 23.4 %
	出	10,153台	△ 35.6 %	0.0 %	△ 12.0 %	△ 26.1 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	44,023台	△ 23.4 %	6.0 %	12.3 %	12.5 %
	出	44,271台	△ 26.1 %	4.7 %	12.0 %	12.6 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	41,570台	△ 5.6 %	7.8 %	18.4 %	- %
	出	42,617台	△ 3.2 %	13.5 %	23.7 %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		147件	30.1 %	3.5 %	△ 14.5 %	△ 29.0 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		1件	(前月 5件)	(前年同月 2件)	(前々年同月 8件)	(令和元年同月 2件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	24,707人	9.8 %	8.1 %	29.1 %	△ 13.7 %
	飯田～名古屋	14,276人	0.2 %	2.5 %	16.5 %	△ 23.1 %
	飯田～長野	3,344人	△ 15.4 %	△ 8.3 %	2.3 %	△ 57.7 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	18,697人	1.9 %	7.2 %	42.1 %	△ 17.2 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,341人	10.5 %	8.6 %	11.9 %	△ 10.9 %
	右回り	3,008人	△ 2.9 %	1.3 %	4.1 %	△ 22.5 %